



福岡町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福岡町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

松岡鼎かなえが学んだ 医学の道



第67号で紹介しましたように、松岡家の長男の鼎(かなえ)は、医学を学ぶために辻川を後にし、上京します。そして、明治14年(1881)に東京大学医学部別科に入学します。鼎の大学入学に際して、父の操(みさお)は、播州龍野出身で初代千葉県令となった柴原和(しばはらやわら)に宛てて漢文の手紙を書き、学費の不足分の支援を依頼しました。



「病理総論」上

柴原は、郷里の後進のために援助を惜しまない人でした。そのため、同じく龍野出身で帝室博物館総長などを歴任した股野琢(またのたく)の家に鼎を書生として住み込ませてくれるよう、話をつけてくれたのです。こうして、鼎は書生をしながら医学の習得に励みました。当館では、鼎が医学生のときに講義を記録したノート30点を展示しています。



「治療通論 電気療法之部」一

左の写真は当館で展示している鼎のノートの一部ですが、講義記録が毛筆の細やかな字で記され、図も描かれています。ここから真剣に医学を学んでいる鼎のようすがわかります。このように苦学を続けた鼎は、明治19年(1886)に帝国大学医科(名称が変更となる)を卒業します。そして、明治20年(1887)2月に、茨城県北相馬郡布川町(現北相馬郡利根町布川)で「済衆医院」を開業し、医師としての一步を踏み出したのです。



柳田國男・松岡家記念館

故郷七十年を 読む

名著著書紹介

医学生であった鼎は、代診を勤めて得たお金を辻川の両親に送金していました。

このお金を北条(現加西市)まで取りに行っていたのが、國男でした。『故郷七十年』では、母のたけは体が弱く、父の操は亡くなるまで天保銭が8厘であることを知らない気楽人であったため、自分よりほかに行く人がいかなかったと記しています。

そして、鼎からの「為替が届くと、母は腹巻を作ってくれて、その中に金を入れて腹に巻くようになどと、くどくどと注意を与えて家を出すのだが、北条と辻川の間、郡境の所に大きな池が三つほどあり、淋しい、追剥

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間

9時～16時30分

(入館は16時まで)

☆休館日

月曜、祝日の翌日

12月28日～1月4日

☆入館料

無 料

兵庫県中播磨県民局の地域の夢推進事業の補助を受け、現在、辻川山周辺の整備を行っています。

この整備による短歌の森歌碑工事で、松岡俊次(次男)、井上通泰(三男)、柳田國男(六男)、松岡静雄(七男)の歌碑が柳田國男生家横に建てられました。

このうち、静雄の歌は、鼎(長男)の還暦を祝ってつくられたものです。井上通泰の提案で、姓の「松岡」にちなみ「松」および「寄松祝」を題とした歌を兄弟がつくったうちの一つです。

静雄をはじめ、松岡兄弟がどのような歌を詠んでいるか、ぜひ一読ください。



松岡兄弟の歌碑

